

清水寺本堂

保存修理工事現場の公開

～県指定有形文化財 清水寺本堂～

せいすいじほんどう

発行日 平成 21 年 8 月 22 日
発行所 長崎市魚の町 5-1
長崎市文化財課
TEL095-829-1193

日時 平成 21 年 8 月 22 日 (土) 10:00 ~ 12:00
場所 長崎市鍛冶屋町 8-43 真言宗霊雲寺派 長崎山 清水寺
主催 長崎市文化財課

講師 (財)文化財建造物保存技術協会九州支部 くるもと まさゆき 来本 雅之 氏

1 工事の対象の名称等 (竣工後)

県名	名称・構造形式	備考	
		工期	修理方針
長崎県	竣工 (長崎県長崎市鍛冶屋町) 清水寺本堂 1 棟 構造形式 平屋建、入母屋造、本瓦葺 建物規模 桁行三間、梁間三間、一重裳階付、南面庇付	事業期間 51 カ月 平成 18 年 1 月 1 日 平成 22 年 3 月 31 日	全解体修理

2 指定年月日 昭和 57 年 1 月 25 日

3 建立及び修理の経過

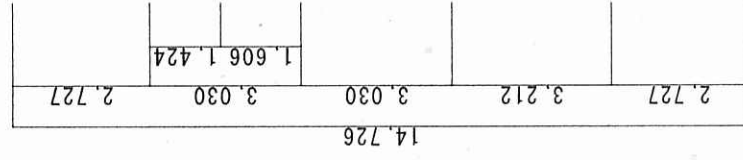
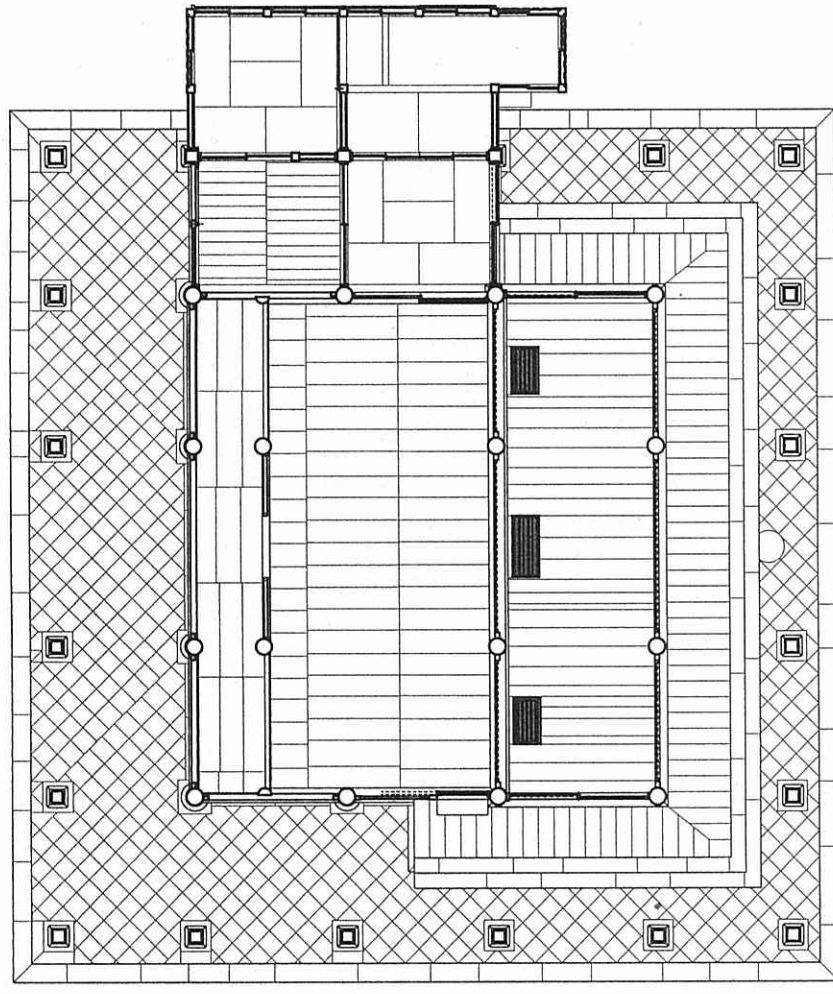
長崎山清水寺は、京都の清水寺の僧であつた慶順によつて元和 9 年 (1623) に創建された寺院で現在は真言宗 (霊雲寺派) に属している。境内は市内からみて

東にある風頭山の山麓にあって、崇福寺や興福寺などの寺院が立ち並ぶ一帯の南端に位置している。山麓から雛壇状に石垣が積まれ、本堂は山の中腹に位置している。現本堂は内陣に安置された中央厨子の朱書きによる寛文 3 年 (1663) と本堂背面にある石碑銘の寛文 8 年 (1668) から、この頃に建立されたと推定されてきた。解体工事の結果、外陣黄檗天井組物斗より「寛文八年申六月」の墨書が発見されたことから、この頃に建立されたことが改めて明らかとなった。石碑の内容は隣接する崇福寺の大檀越であつた唐商・何高材が寛文 6 年に亡くなった妻の菩提を供養のため、息子の兆晋、兆有と共に改築を寄進したとされる。

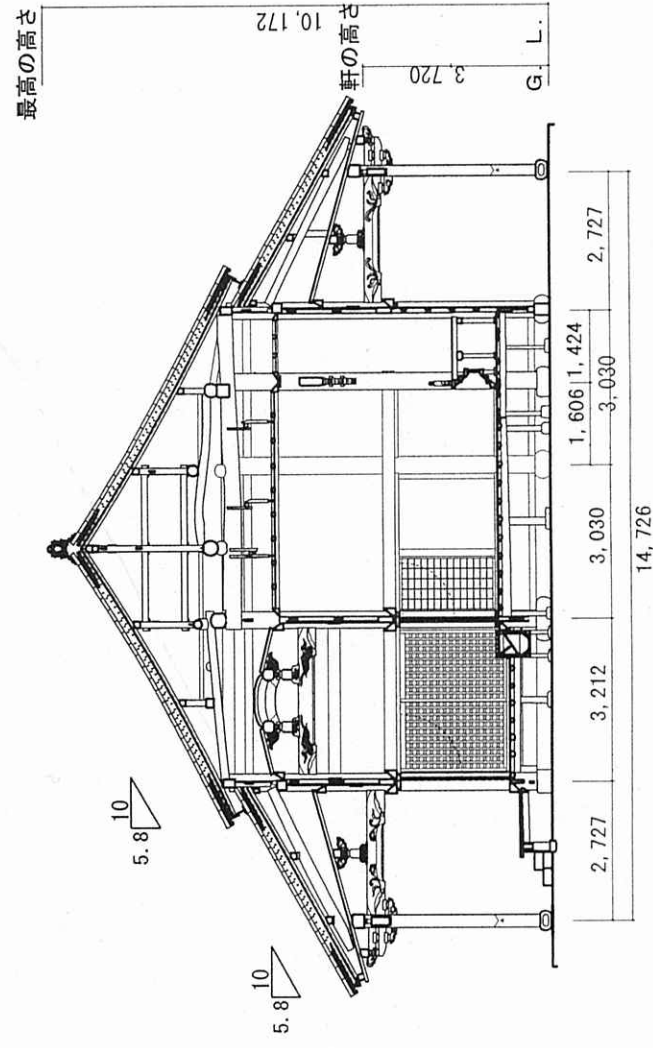
修理前の本堂は方三間堂で、周囲に一間通りの裳階が巡る。堂内は正面一間を外陣とし、内陣は梁間方向二間分に加え中央厨子を構える部分のみ背面裳階に半間突出していた。内陣奥中央に安置された中央厨子は一間四方入母屋造平入で、今回の調査で正面琵琶板裏側より「延宝二年 (1674) 寅五月吉日」の墨書が発見され、合わせて大坂の大工・塗師によつて製作されたことがわかつた。

本堂の様式は絵様や外陣天井・仏壇境組物などに中国様式を色濃く感じられ、一方平面形式には床を張つた日本の密教本堂の様式が採用され、細部様式にも日本様式が見られる。このように様式が混用された建物は全国的にも他に類がなく、長崎の歴史の多様性を物語る建物として貴重であり、昭和 57 年に長崎県指定有形文化財の指定を受けている。

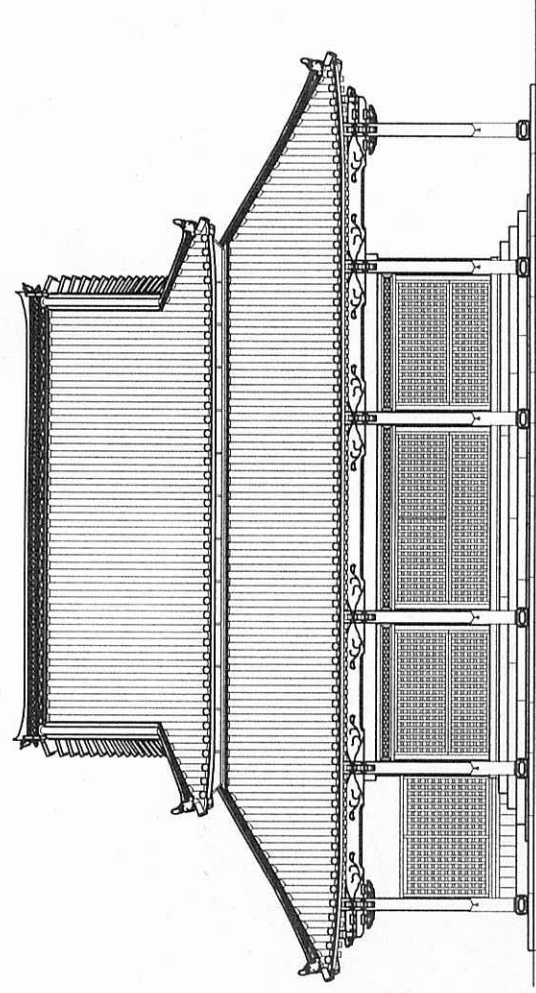
修理前の本堂は多くの部材に白蟻の発生が確認され、全体に前方に傾斜していたことなどから解体修理を実施している。工事は長崎県・市の補助を受けて平成 22 年 3 月の竣工を目指している。



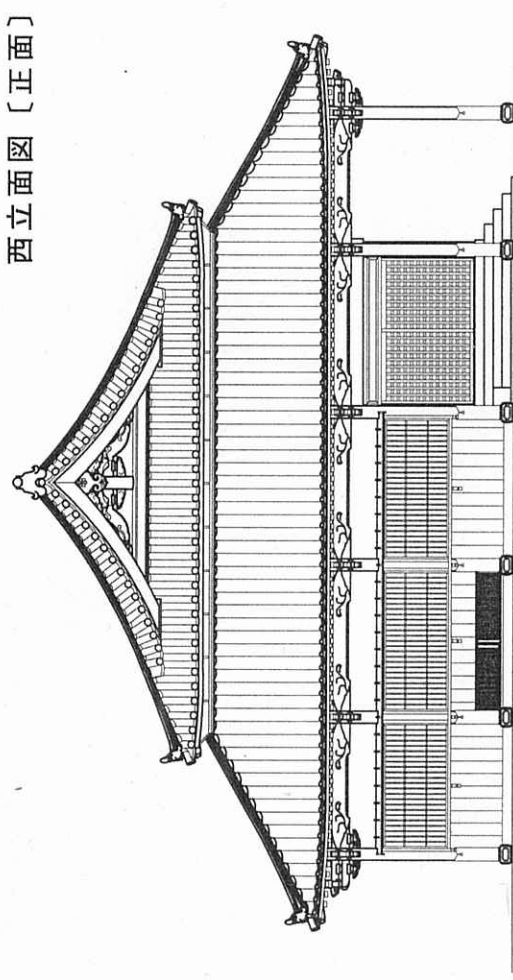
平面図 (竣工)



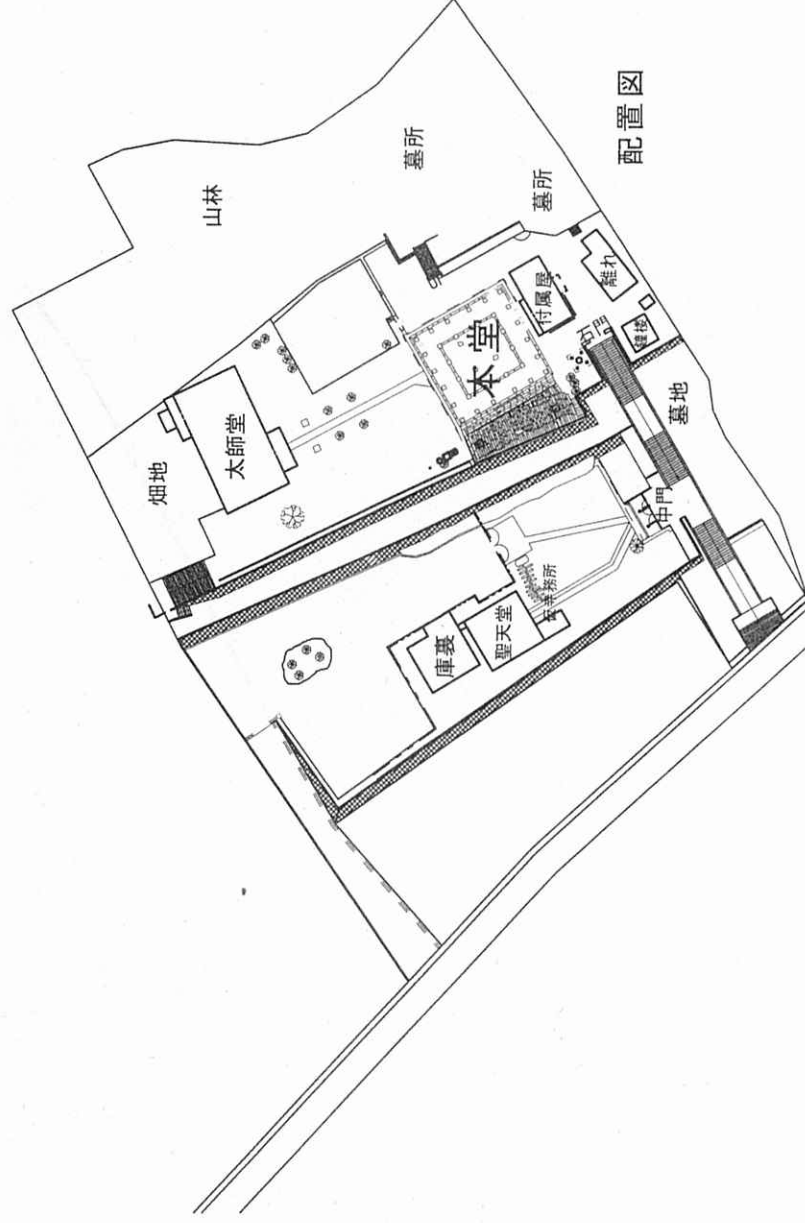
梁間断面図 (竣工)



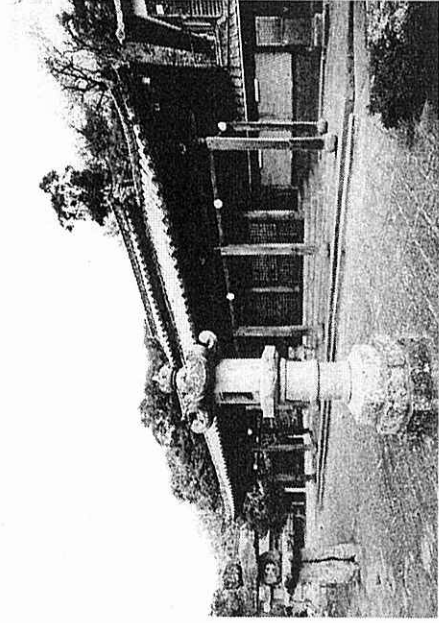
西立面图〔正面〕（修理前）



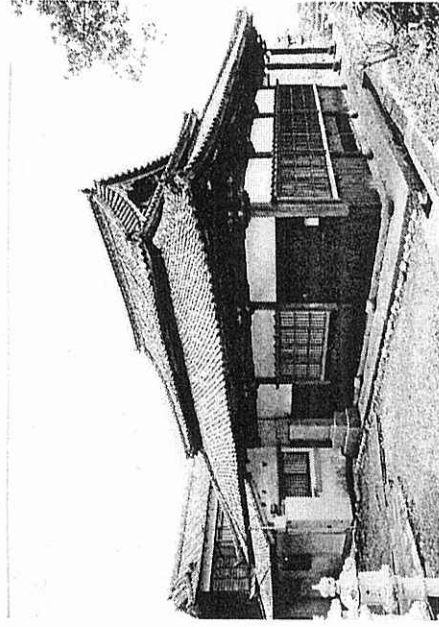
北立面图（修理前）



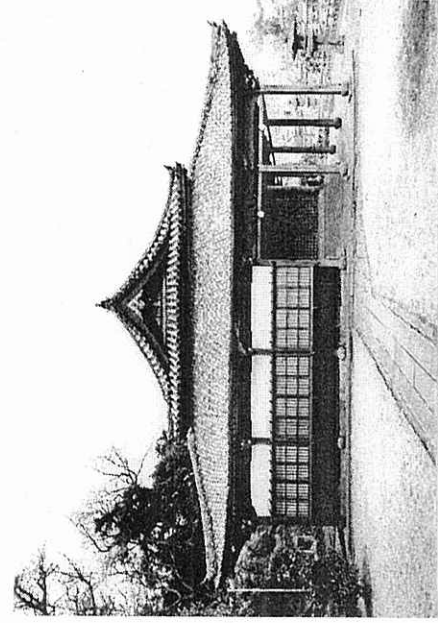
配置图



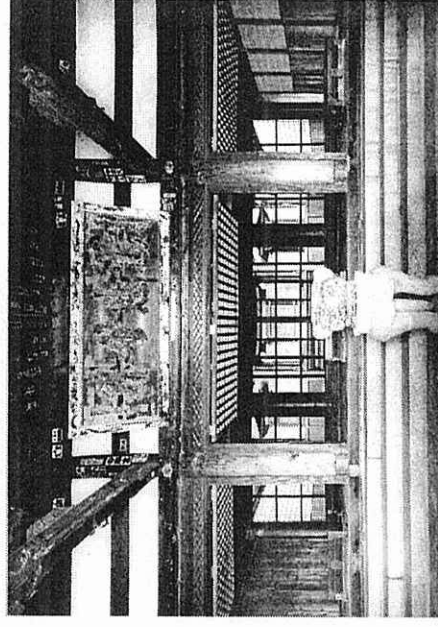
修理前：南西方向から見る



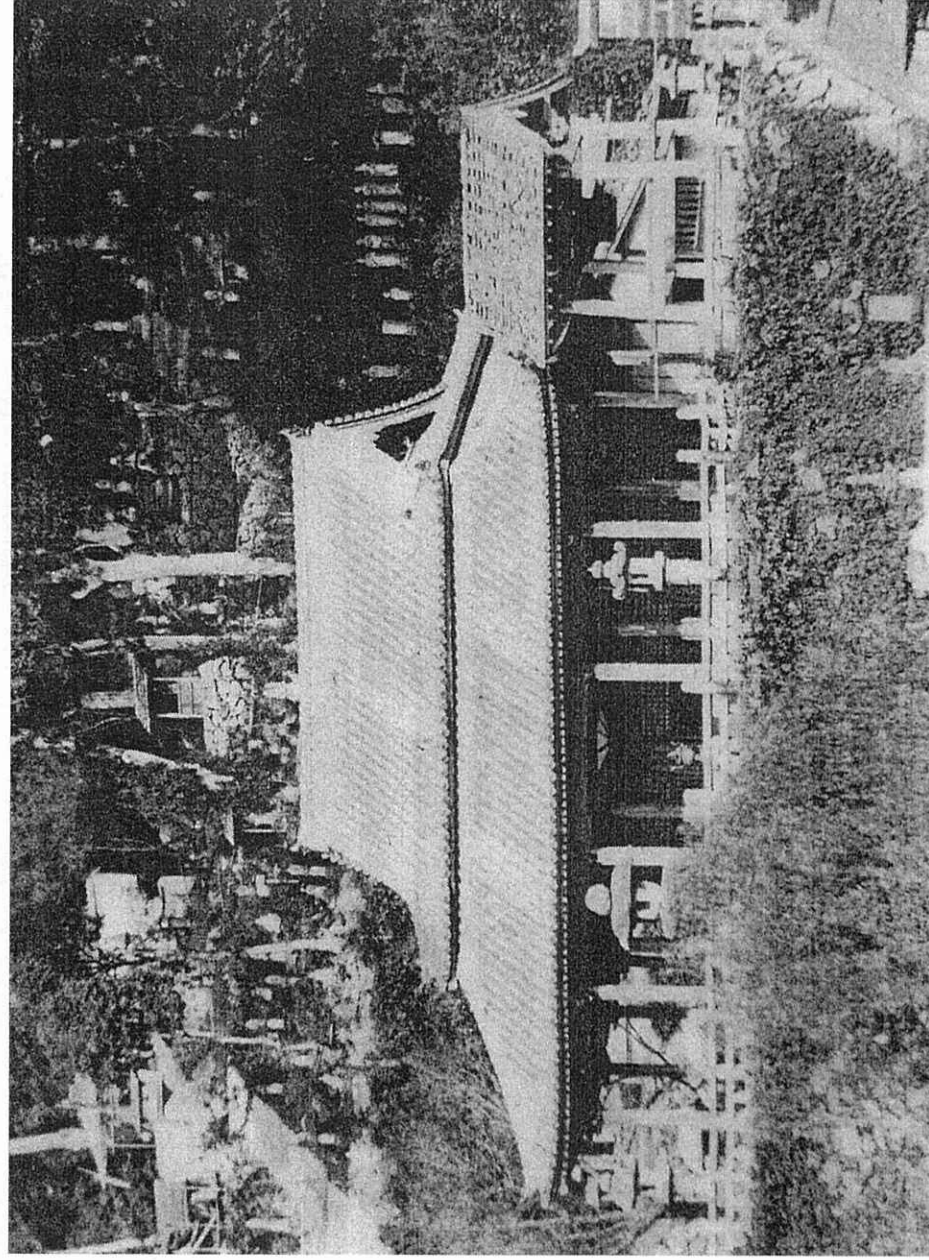
修理前：北東方向から見る



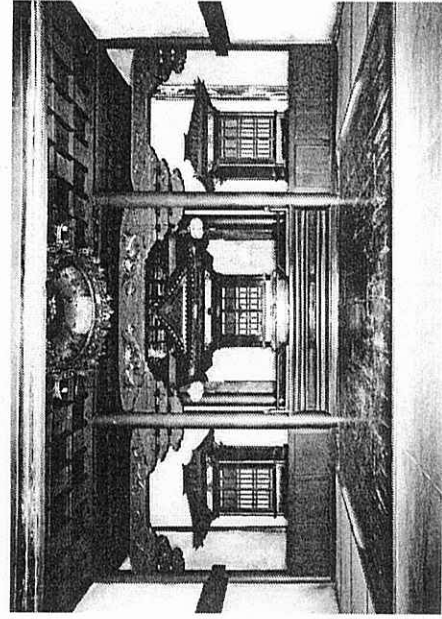
修理前：北から見る



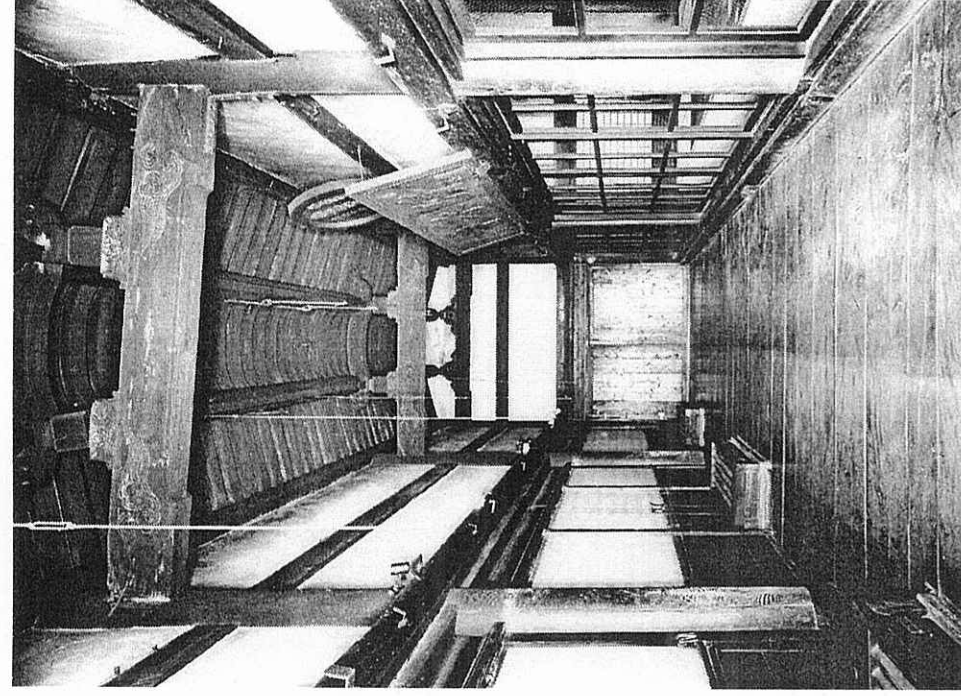
裳階から内部を望む



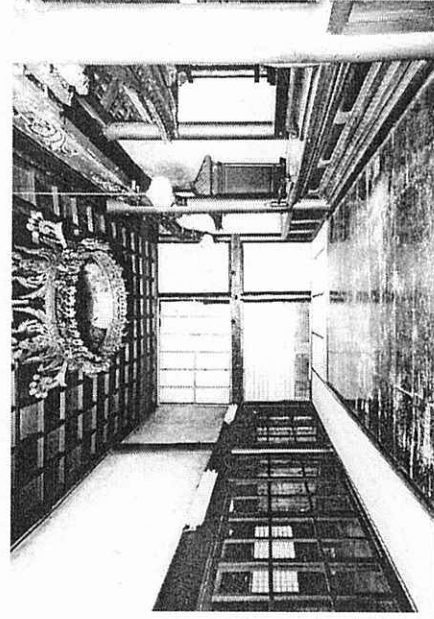
明治元年頃古写真（長崎大学付属図書館所蔵）



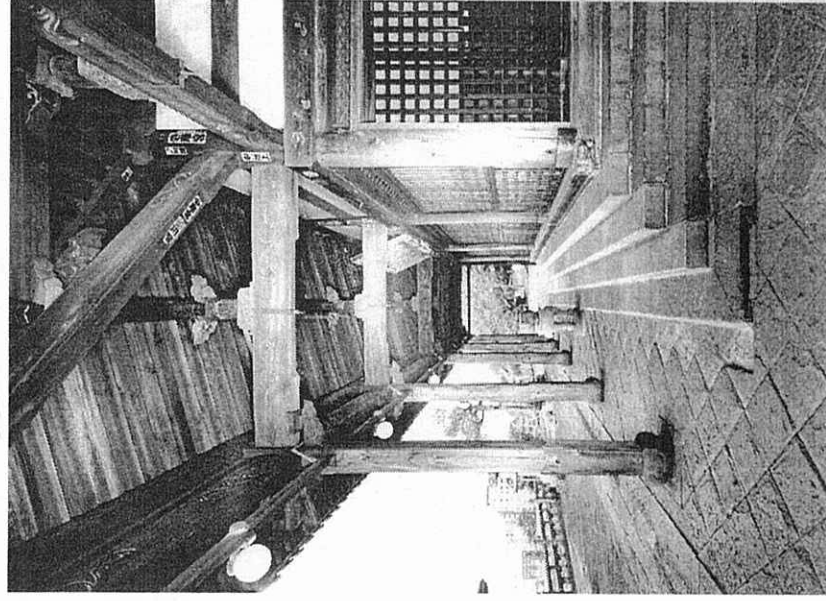
内陣正面・宮殿(三基)



外陣見通し



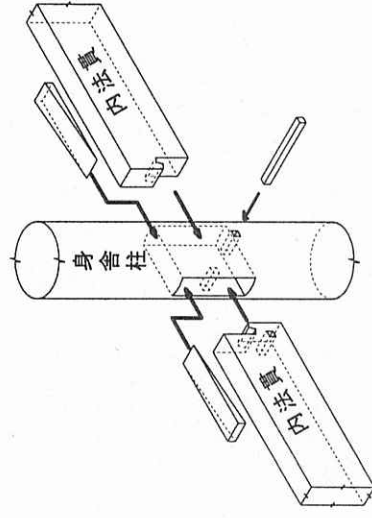
内陣見通し



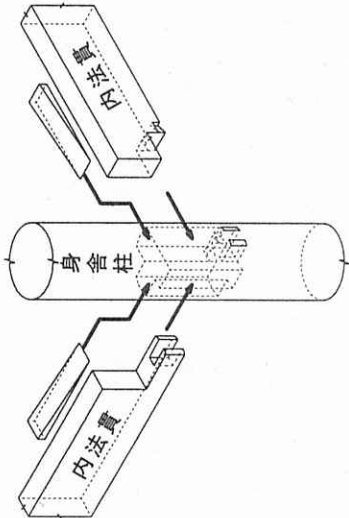
正面裳階通り



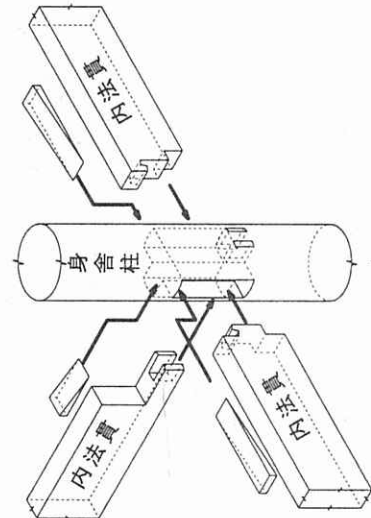
外陣黄檗天井組物斗より発見された建立年代を示す墨書



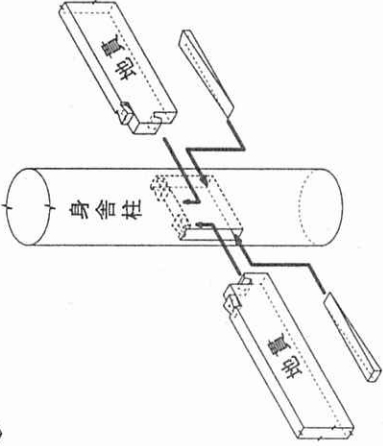
内法貫納まり図 1



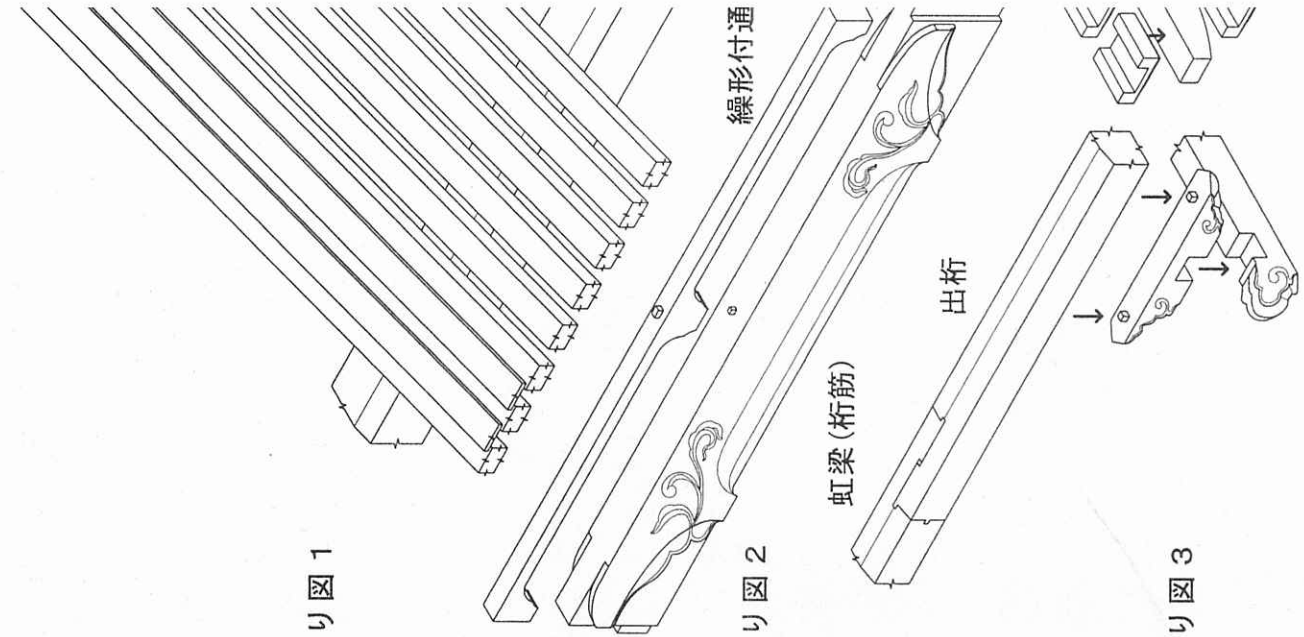
内法貫納まり図 2

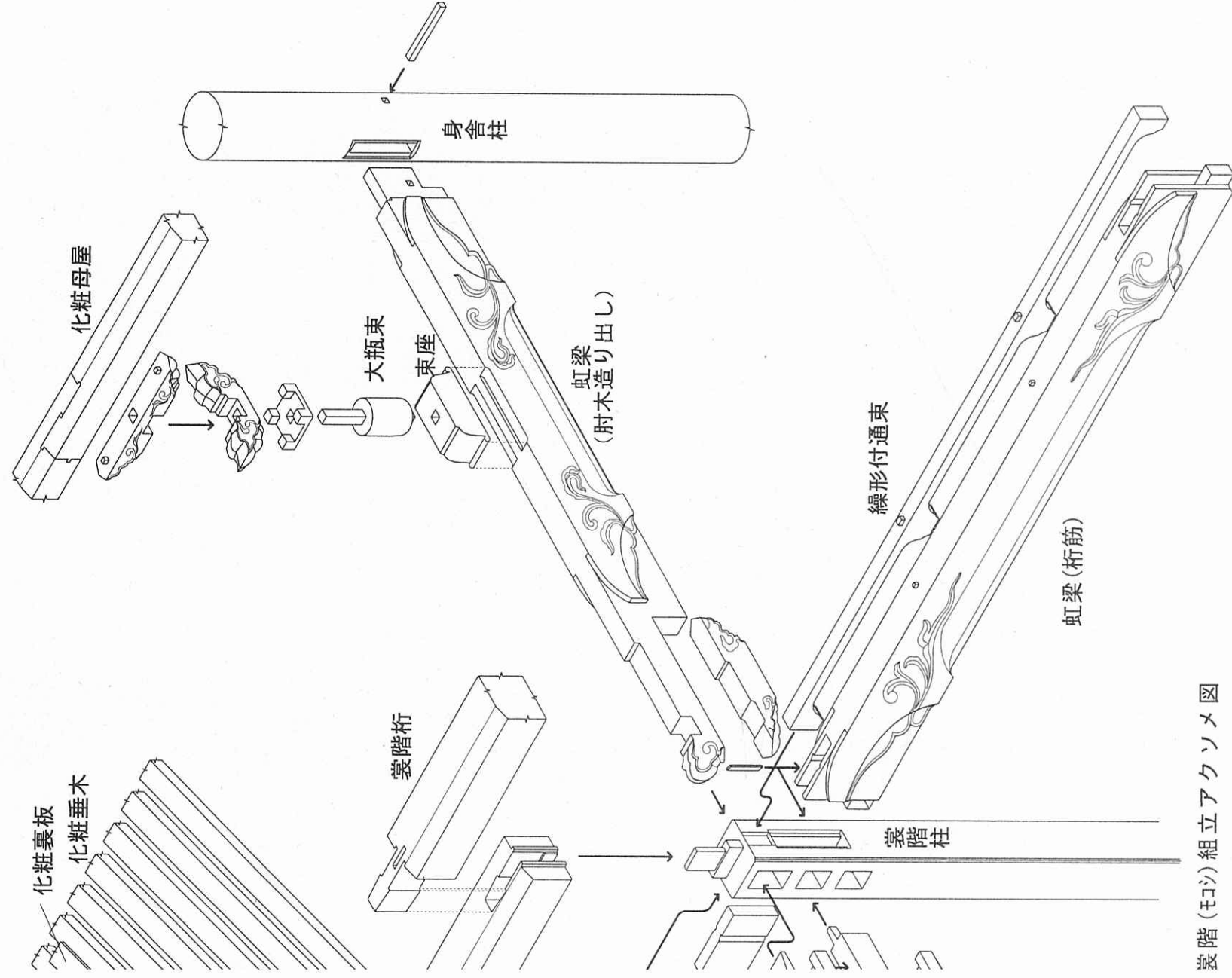


内法貫納まり図 3

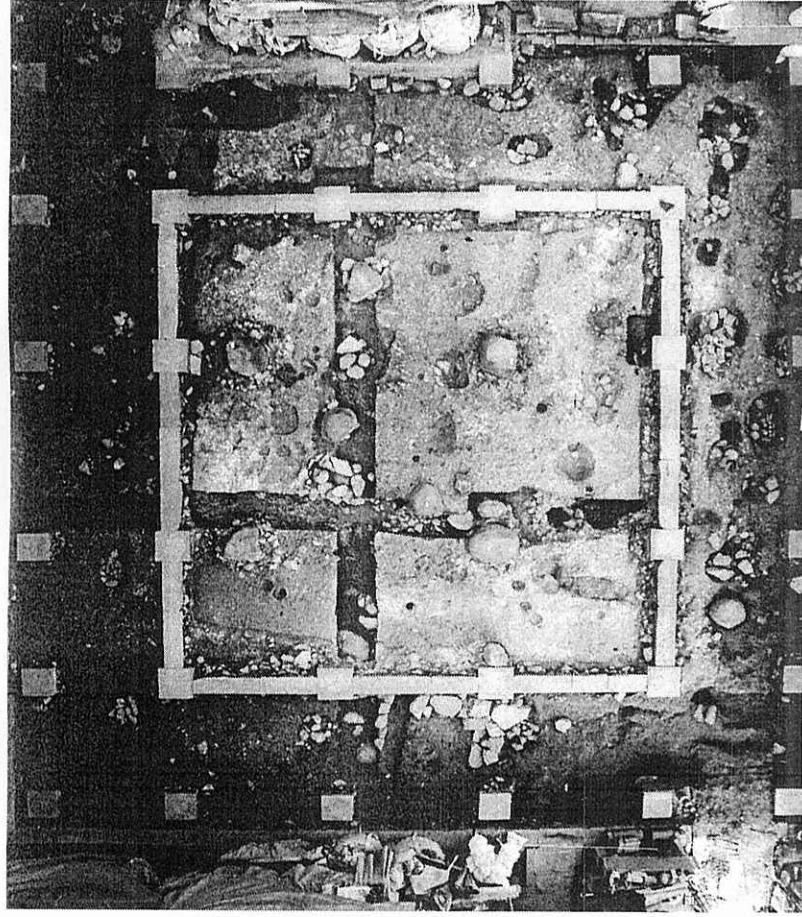


地貫納まり図 1

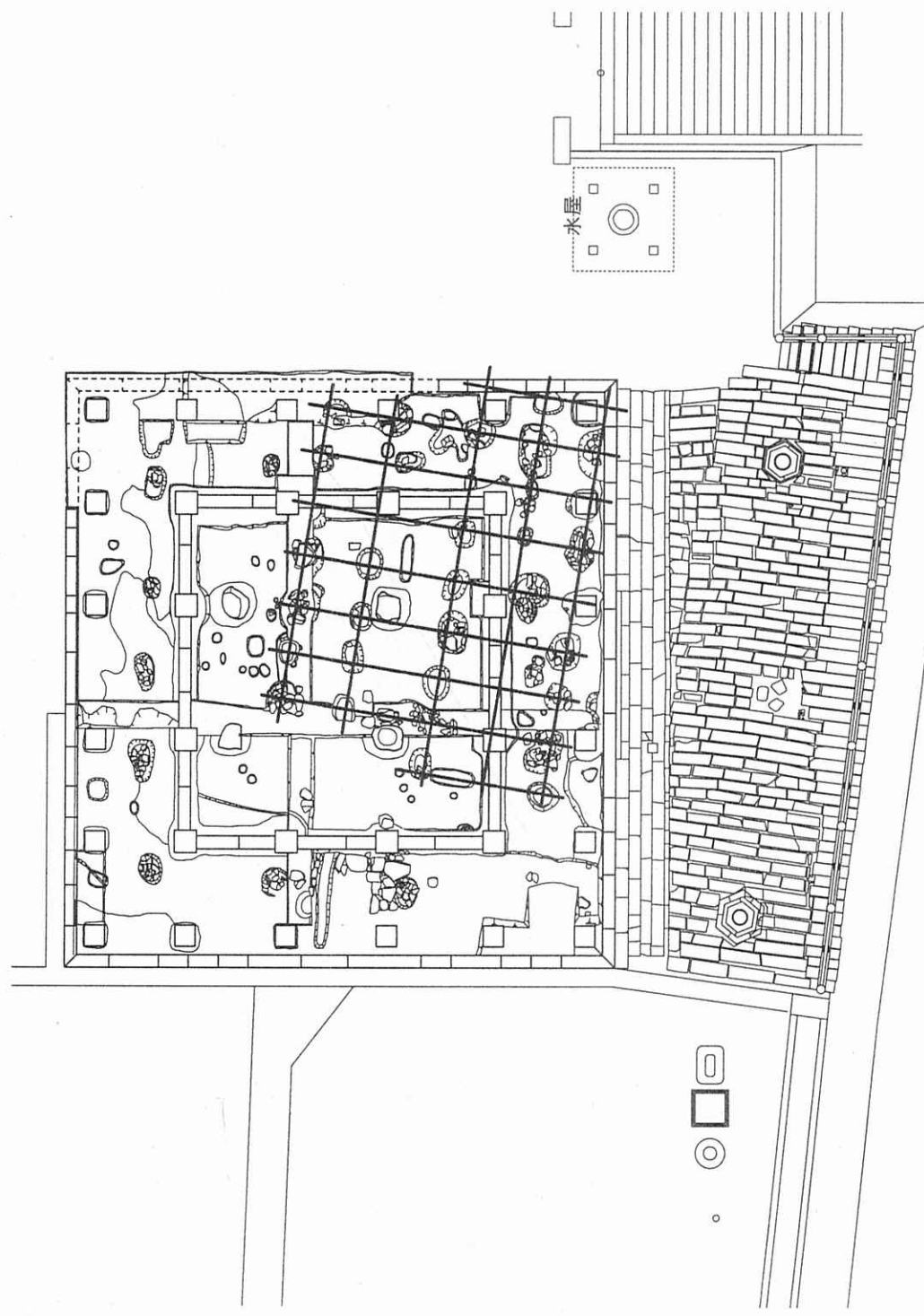




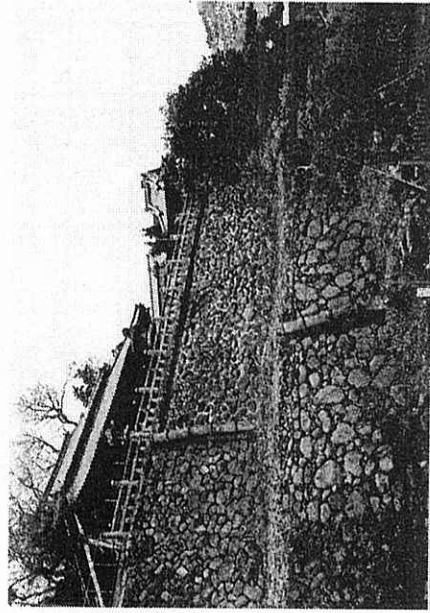
裳階(モジ)組立アクソメ図



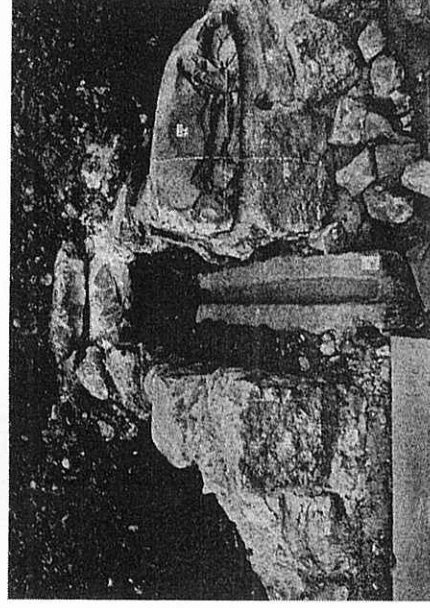
慎重工事による旧地盤面



遺構図(寛永9年建立前身堂)

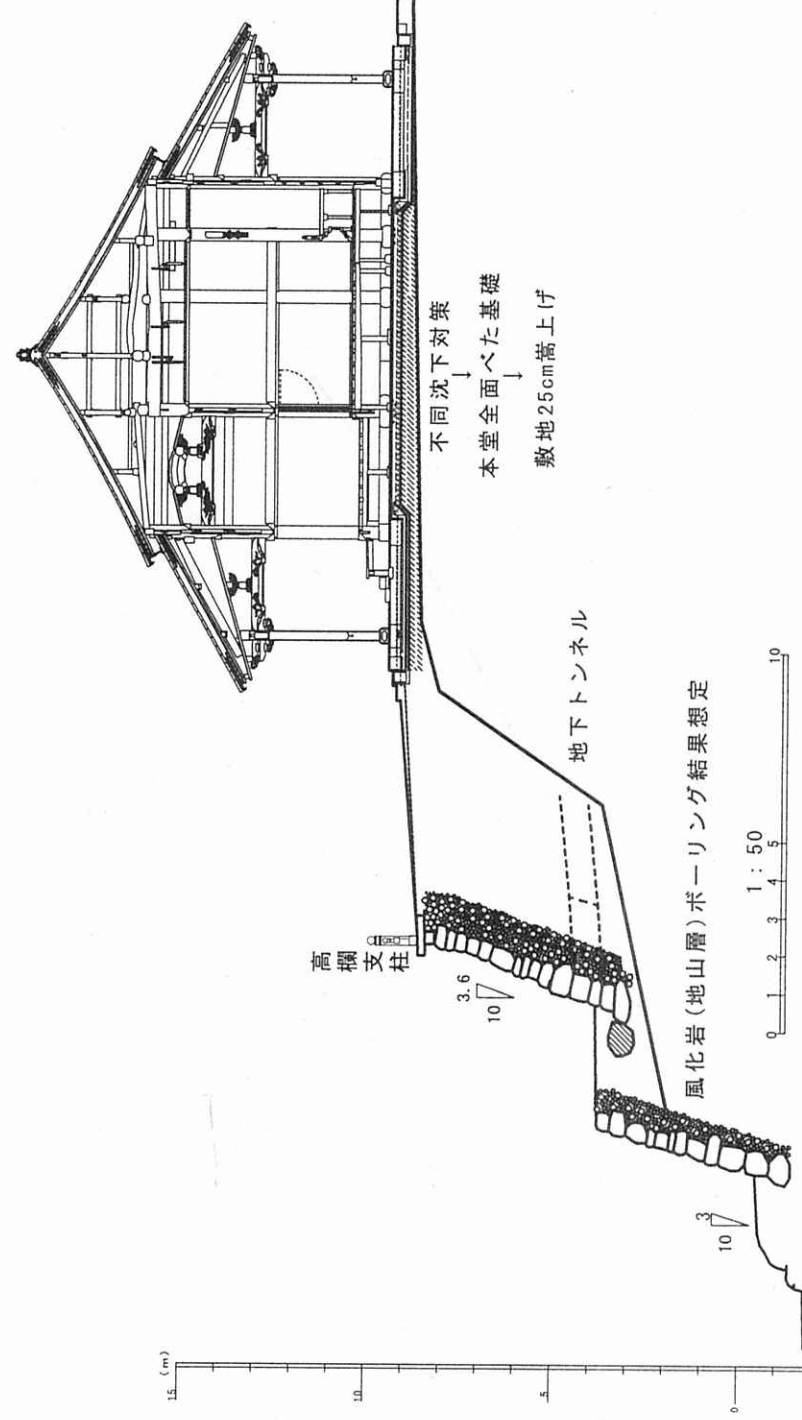


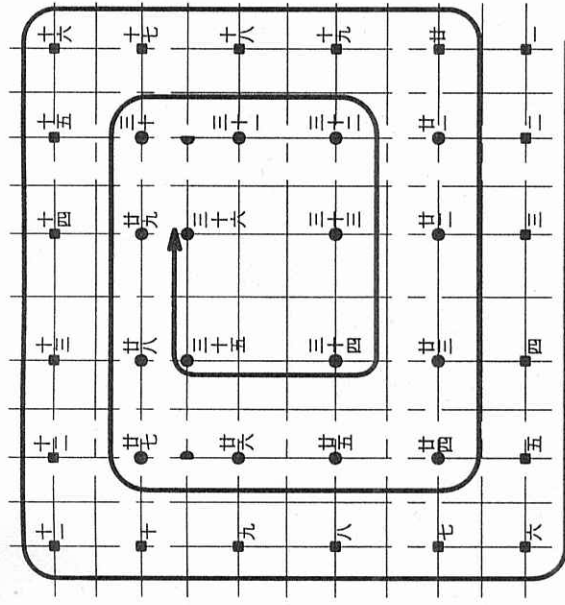
正面石垣・石造高欄



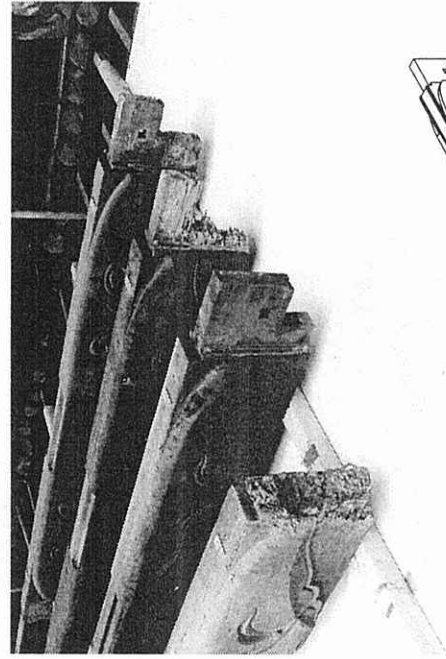
上段石垣中央のトンネル

清水寺本堂地盤断面図

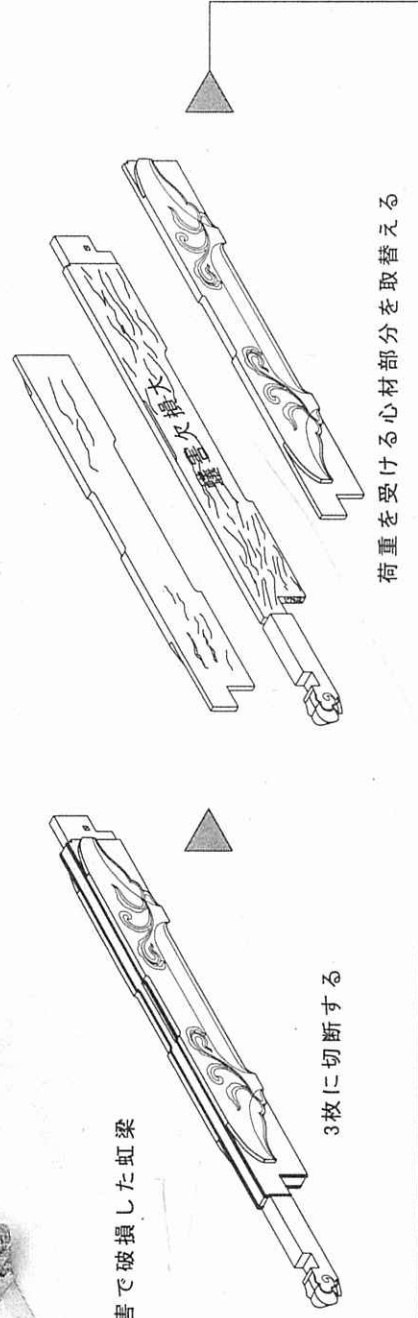




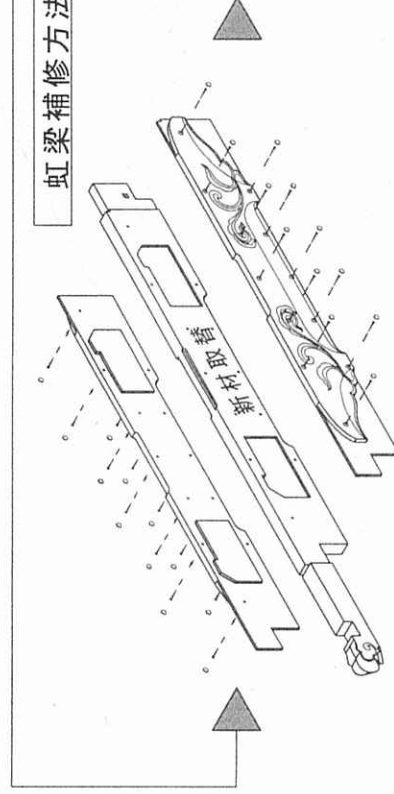
当初番付（廻り番付）



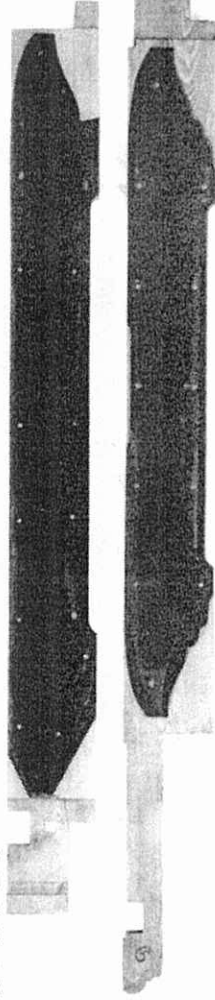
蟻害で破損した虹梁



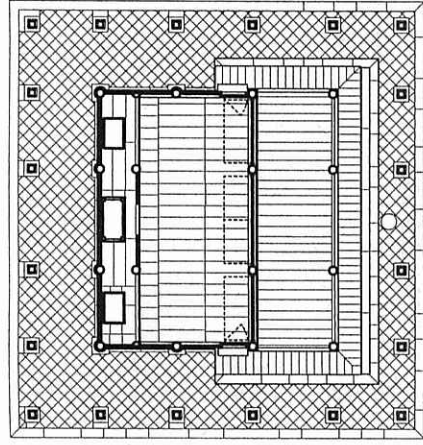
虹梁補修方法



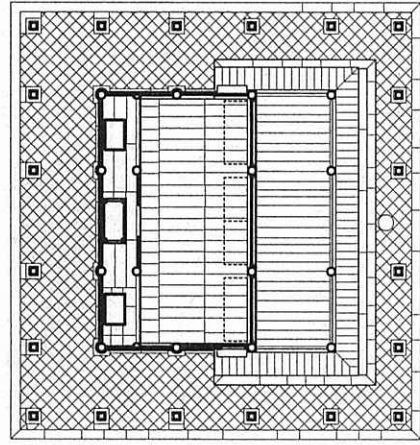
彫刻のある両面を心材に縫い合わせる



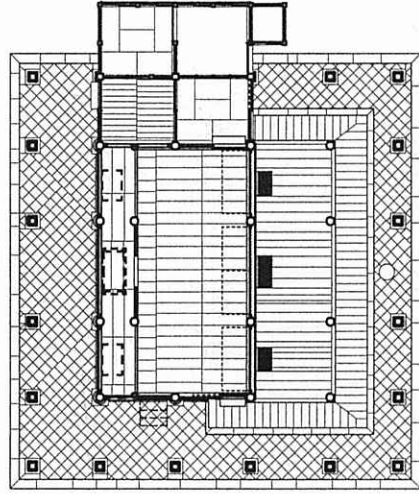
平面変遷図



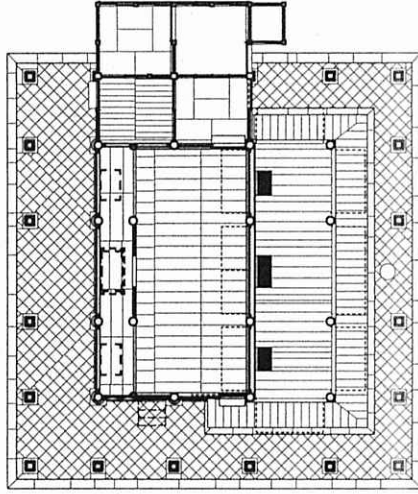
当初



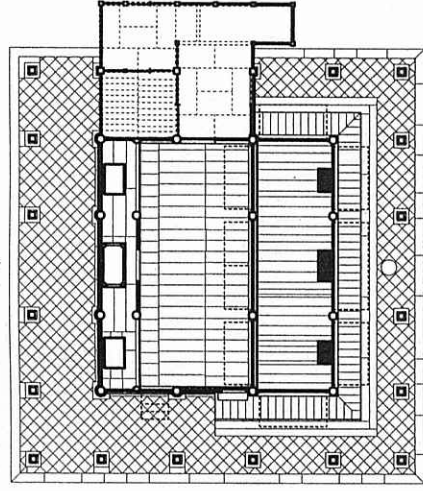
安永4年以前



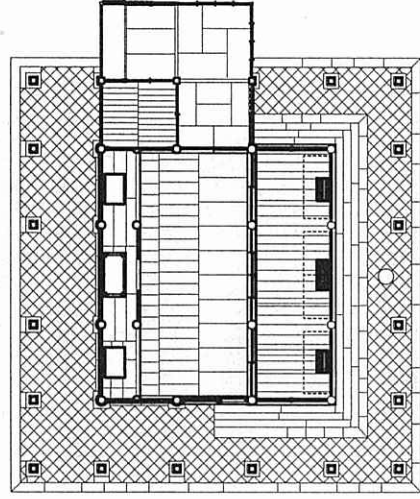
安永4年頃～文政7年頃



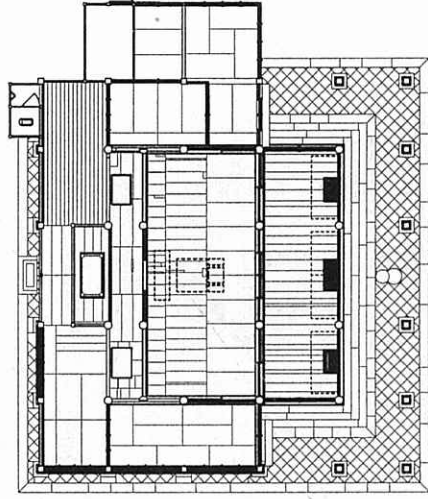
文政7年頃～明治20年頃



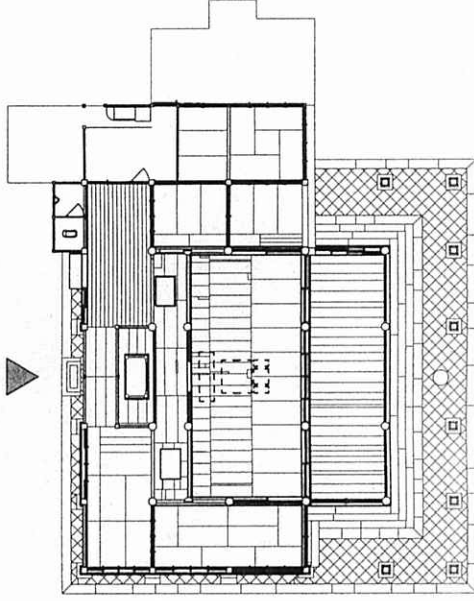
明治20年頃～大正4年頃



大正4年頃～大正13年頃



大正13年頃～戦後



戦後～昭和58年

和暦	西暦	事	備考	長崎関係
元和 寛永	9	僧慶順が飯の堂宇を建てる(清水寺興成院と称する)	長崎市史・寺伝	
	4	1.627 改築(鳥原城主松倉豊後守重政、堂前に瓦敷・石欄・松植樹を施す)	長崎市史・寺伝	
	9	1.632 西村忠庵「奔馬図」額奉納	俵背面墨書・台座墨書	超然崇福寺創立の公許を受ける
	10	1.633 5月吉日 昭弘勝重地蔵王像・毘沙門天像建立される 7月末次氏所有の御朱印船の船頭石本庄左衛門等が火額を奉納する	長崎市史・寺伝	
正保	12	1.635	刻印銘	崇福寺法堂建立
	15	1.638 元石階両脇(現福荷社前)石灯籠1対建立	陰刻銘	
	19	1.642 筑前博多の商人伊藤小左衛門が京都三条釜座伊豆守藤原直次作梵鐘一口奉納		崇福寺梵鐘鑄造 崇福寺大雄宝殿・第一峰門建立
	20	1.643		
慶安	3	1.646 南京人文從周等本堂前の石欄を改築	長崎市史・寺伝	
	2	1.649 3月不動堂前水鉢 武州豊島郡江戸住人一川小右衛門奉納	長崎市史・寺伝	
	1	1.652 5月21日開山慶順没	長崎市史・寺伝	
	2	1.653 寺地全部免租	長崎市史・寺伝	
明暦 寛文	3	1.654		
	2	1.656 6月7日「清水寺」額なる	刻印銘	何高材 崇福寺釈迦三尊寄進世話人になる 徳元導師興福寺に入寺
	3	1.663 8月吉日高島四郎兵衛本堂中央宮殿奉納?	側面朱漆書?	福清寺大雄宝殿完成 大火で長崎市中焼失
	4	1.664		
	6	1.666 外陣天井組物より墨書「寛文八年申六月」	墨書	崇福寺前身燬相堂完成か?
	8	1.668 帰化唐人何高材・その子何兆普等が堂塔の造営	石碑刻印書	崇福寺燬相堂門この頃完成
	9	1.669		
	11	1.671 何高材逝去		崇福寺燬相堂前の石畳が魏爾潜の寄進
延宝	12	1.672 湯殿陣跡が呉泰の書「慈悲世界」額奉納	長崎市史・寺伝	
	1	1.673 「繁馬図」額奉納	長崎市史・寺伝	崇福寺三門福州船主林延棟らが寄進完成
	2	1.674 石門外石燈籠1対建立 中央宮殿建立	石燈籠刻印 宮殿琵琶板墨書	
	1	1.681		8月崇福寺大雄宝殿重層化魏爾潜(之琰)の寄進で完成 この頃福清寺大雄宝殿重層化
元禄	3	1.690	長崎市史・寺伝	
	5	1.692 12月「曾我五郎時政仇討図」額奉納	長崎市史・寺伝	
	8	1.695 9月久留米藩有馬氏十人扶持を寄進	長崎市史・寺伝	
	9	1.696		
	11	1.698 正月 殿鐘成る「長崎山清水寺三世法印真来」	長崎市史・寺伝	この頃崇福寺第一峰門完成
	14	1.701		崇福寺大雄宝殿修理
宝永	1	1.704 5月中央厨子内の左木蘭樹干手観音像：山崎観音寺以空僧正より寄付	長崎市史・寺伝	
	13	1.728		崇福寺鐘鼓楼福州の広葉杉で崇福寺棟梁 荒木治右衛門組立
享保	15	1.730 9月14日十二天像周防岩国岩戸山妙福寺法印諱空印置	長崎市史・寺伝	崇福寺護法堂上梁する
	16	1.731	長崎市史・寺伝	
	10	1.760 長賢、大師堂を本堂脇に建立	長崎市史・寺伝	
	11	1.761 清国浙江仁和の王履階が「長崎山」の大額を仁王門にかける	刻印銘	
明和	8	1.771 9月四万田慈輔、石門を建てる	長崎市史・寺伝	
	1	1.772 「二王門図」「伊勢群参図」奉納	床板裏面墨書	崇福寺大雄宝殿修理
	4	1.775 内陣床板墨書	墨書	
	8	1.779 4月「慈悲世界」額修理	墨書	
享和	2	1.802 6月「南無阿彌陀仏」「清水寺」額修理	刻印銘	
	9	1.802 本堂前面石燈籠北側建立	長崎市史・寺伝	
	2	1.819 2月唐船一艘につき銀百目宛十銭限り寄付	長崎市史・寺伝	
	5	1.822 久留米藩有馬氏 聖天堂(12坪3間×4間・三方下屋付・廊下5間余り)建立	長崎市史・寺伝	
天保	7	1.824 3月3日より晴天21日間本尊千手観音菩薩像を開帳 本堂前面石造五重塔臨花貝塚建立	長崎市史・寺伝	
	11	1.828 8月9日大風で松・椎5本吹き倒れる	長崎市史・寺伝	崇福寺大門倒壊
	4	1.833 本堂背面石燈籠1基大工町田中徳松他12名	刻印銘	
	14	1.843 10月24日銀治屋町より出火、聖天堂・廊下・庫裡、摂待所、二王門が焼失	長崎市史・寺伝	
安政	4	1.851 聖天堂・庫裡等再建する・6月「俳句の額」	長崎市史・寺伝	
	6	1.859 幕府よりの3貫目受領停止	長崎市史・寺伝	
	1	1.861 本堂修理を示す墨書多数(寛延二年～文久三年まで)	墨書	
	1	1.864 本堂前面石燈籠中央建立 3月御開帳	長崎市史・寺伝	
明治	4	1.871 廃藩置県により久留米藩からの10人扶持停止	長崎市史・寺伝	
	6	1.873 6月法相宗の兼修を止め、古義派真言宗となる	長崎市史・寺伝	
	10	1.877 八坂神社の前身宝樹山現応寺の鐘楼移築する	長崎市史・寺伝	
	20	1.887 この頃まで外陣板間、これ以後墨敷	長崎市史・寺伝	崇福寺諸堂修理完成
大正	42	1.909 1月京都清水寺と絶縁、東京本郷靈雲寺の末寺となる	側面朱漆書	
	13	1.924 中央厨子修理・御開帳	証書	
	57	1.982 長崎大水害 本堂真山崩壊一部破損		
	1	2.006 1月25日 長崎県指定有形文化財に指定される		
平成	18	2.006 1月25日本堂保存修理工事着手		